

確かな歴史ファンを増やす歴史体験学習講座の在り方について

宮崎市佐土原歴史資料館
学習指導員 戸高 達之

【要 約】

宮崎市佐土原歴史資料館（以下、本館という）は郷土の歴史を理解し、郷土愛溢れる市民育成のために設置されている。そのため市民への歴史体験学習の在り方を工夫して宮崎市の歴史に興味のある市民を育成することが学習指導員に課せられた課題である。そこで、歴史体験学習の在り方を「つながり」「分かりやすさ」「やりがい」の3つのキーワードを基に工夫改善し、確かな歴史ファンの育成を図ることとした。評価については、受講者の意識調査や再受講率などをもとに3つのキーワードに基づく手立てが有効に機能しあったのかを確かめ、より効果的な歴史体験学習の在り方を究明していきたい。

はじめに

一般的に歴史関係の資料館は、歴史に関する予備知識が必要な場合が多く、五感的な感性で楽しむことのできる理科系の博物館に比べて入場者が限られた傾向にある。本館も例外でなく来館者は全国の城愛好者、県内の歴史愛好者等が多い。一方、今日の社会は人生100年時代を迎えつつあり、第2、第3の人生を歩む人の人口比も年々増える傾向にある。退職後の一人一人の生きがいがづくりは社会的課題でもある。このような時代背景の中で歴史ファンの中に年配者が多い（令和3年度本館歴史講座 60歳以上 68%）という事実は本館の歴史体験学習が年配者にとっての生きがいとなる可能性を大いに秘めているということになる。

歴史体験学習が生きがいにつながるためには、学びに継続性をもたせる必要がある。そこで、本館における歴史体験学習について次にあげる3点から工夫改善することにした。一つ目は1年を通して歴史学習を系統的なものにして連続性をもたせること（つながり）、二つ目は初心者にも分かりやすい内容と資料を用意すること（分かりやすさ）、三つ目は歴史体験学習を通して佐土原の歴史から学んで分かった喜びや驚きを受講者の更なる学ぶ意欲につなげるようにすること（やりがい）である。このことは、今日の社会が必要とする持続可能な社会の形成（SDGs）の具現化にもつながると考える。

第1章 本館の特徴

第1節 城下町佐土原

本館のある西佐土原地区は、鎌倉時代の田島氏、室町時代の伊東氏、江戸時代の島津氏の三氏の治世600年におよぶ県内で最も古い城下町である。また、明治から昭和初期までは、商業や歓楽街として県内有数の賑わいをみせ庶民の文化が栄えた。今はかつての城下町の面影を残すものは少なくなったが、神社仏閣、佐土原人形、うずら車、クジラ羊羹、ダンジリ等文化的な要素を今日にも多く残している。惜しくも、この歴史的価値を伝承する方々が年々少なくなっているのが実情である。

第2節 本館の特徴

本館は、旧佐土原町時代フィールドミュージアム構想のもと平成5年につくられた歴史資料館であり、忘れられつつある城下町佐土原の価値を高めようと造られた。歴史体験学習では佐土原人形、うずら車の絵付け等での文化の継承、町内の史跡探訪が行われてきた。令和2年度の事業では絵付け体験等の実技を伴うものは参加者が多かったが、歴史講座は希望者が定員を割り、参加者も毎回違う顔ぶれであった。つまり、歴史講座を点としての開催から線としての開催にすることが課題になった。

第2章 「つながり」について

第1節 系統性をもった講座内容

課題解決のため、講座間のつながりを強く打ち出し、連続して来たいという意欲を受講者にもってもらうような工夫を行うことにした。

具体的には、佐土原の歴史の特性を考えて、佐土原の歴史を武士編と庶民編の二つに大きく分けた。そしてそれぞれを時代順や内容から2回ずつ計4回で行うことにより佐土原の歴史の流れを系統的に理解してもらうことにした。

第2節 年間講座一覧表の作成

従来からあった佐土原人形、うずら車の絵付けも佐土原の文化の継承にとらえ、武士編、庶民編の歴史講座と関連させることにした。そしてこれらの講座を一覧表にして年度当初の参加者に配布して佐土原の歴史を連続的に学ぶ意義を理解していただくとともに意欲を高めるようにした。右の図1が年間講座一覧表である。

年間の講座内容が繋がっていること、そしていつ行われるかを事前に年度当初に伝えることにした。そのことによって受講者に継続して受講することの意義を理解していただき、各自がスケジュールを立てやすくできるのではないかと考えた。

令和3年度佐土原学を学びバッジやグッズを集めよう

| 名前() | | 講座名 | 期日 | 内容 | 印 |
|-------|--|------------------|------------------------------|--|---|
| 1 | | 佐土原古地図散歩 武士編1 | 4月25日(日) 10:00~ 12:00 | ①佐土原城をめぐる歴史の概略を学ぶ ②古地図を参考にしながら城跡を散策する。 | |
| 2 | | 佐土原古地図散歩 庶民編1 | 6月27日(日) 10:00~ 12:00 | ①城下町佐土原の文化の概要を学ぶ。 ②ダンジリ祭りについて知る。 ③大光寺を見学し、史跡等を見学する。 | |
| 3 | | 佐土原古地図散歩 武士編2 | 7月11日(日) 10:00~ 12:00 | ①江戸期の佐土原藩について学ぶ。 ②古地図をもとに高月院周辺を散策し、藩主墓を訪ねる。 | |
| 4 | | 佐土原古地図散歩 庶民編2 | 10月31日(日) 10:00~ 12:00 | ①旧阪本商家館を中心に明治から昭和初期までの佐土原の庶民文化について学ぶ。 ②佐土原人形「ますや」を訪問し、佐土原人形について製作方法や特色を学ぶ。 | |
| 5 | | 佐土原人形の絵付け体験 | 11月14日(日) 10:00~ 12:00 | ①千支人形、繰起人形の簡単な絵付けをし、佐土原人形のよさに触れる。 | |
| 6 | | うずら車の絵付け体験 | 11月28日(日) 10:00~ 12:00 | ①うずら人形の絵付けをし、郷土玩具のよさに触れる。  | |

4回以上参加の方は、佐土原学認定書を差し上げます。

【図1】

第3章 「分かりやすさ」について

第1節 座学と体験学習（史跡見学）の組み合わせ

都於郡伊東興亡史を書かれた大町三男氏は「この本を読んだだけではその半を知っただけに過ぎず、この本と共に史跡を探訪、逍遙しなければ歴史を実感することは不可能である。」と述べられているように歴史の興味を深めるためには実際に史跡を訪ねることが最も効果的な方法である。また、知識なしに史跡を訪ねても興味はわからない。そこで、座学によって史跡についての基本的な知識を受講者に理解していただき、その後本館周辺の史跡を訪ねることにした。以下が座学との史跡見学場所の関連を示した表1である。

【表1】 古地図散歩の内容

| | 座学内容 | 史跡見学場所 |
|------|--------------------|--------------------|
| 武士編1 | 伊東家の歴史 | ・佐土原城 |
| 武士編2 | 島津家（後島津）の歴史 | ・高月院 |
| 庶民編1 | 明治期から昭和初期までの佐土原の様子 | ・町内の史跡・寺院 ※雨天のため中止 |
| 庶民編2 | 前回の内容に佐土原人形を加える | ・前回できなかった史跡・寺院めぐり |

史跡見学に当たっては、ボランティアガイドの協力を得て行った。地元のボランティアガイドが説明することによって受講者により詳しい知識を知ってもらうことができた。



【写真1 座学の様子】



【写真2 ボランティアガイドによる現地説明】

第2節 分かりやすい資料の工夫

歴史関係の資料は、文章が多く、しかも難解な傾向にある。そこで、できるだけ文章を省略し、人物や事件とのつながりが分かりやすいように表化や構造化し、見やすいようにA3一枚に収めるようにした。

また、武士編では江戸期の古地図、庶民編では昭和初期の地図を用い、昔と今の関連が分かりやすいようにした。



【写真3 庶民編での古地図】

第4章 「やりがい」について

第1節 缶バッジと認定証

重ねること継続することで喜びが増す工夫を講座の中で行うことにした。まず、参加賞を兼ねて毎回の講座内容にあった缶バッジを作成し、参加者に配布した。回を重ねるにしたがって缶バッジの数

が増え、集める楽しさと佐土原学に対するキャリアの証となる。

また、佐土原学6回の講座に4回出席したら、「令和3年度佐土原学認定証」を渡すことにした。本年度は9名の方に認定証をお渡しすることができた。



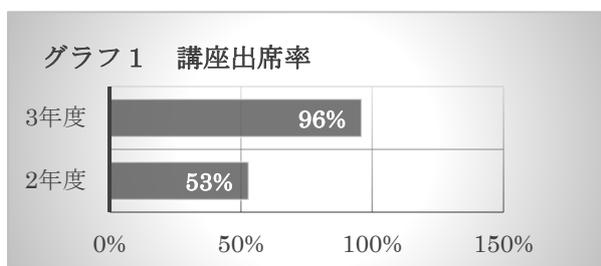
【写真4 参加賞としての缶バッジ】



【写真5 館長による認定証授与】

第5章 おわりに (3つのキーワードによる工夫改善の成果)

第1節 講座の出席率とリピーター (確かな歴史ファン) の育成



令和2年度と令和3年度の講座募集人数と出席者の数の割合は左の通りである。

グラフから分かるように本年度の歴史体験学習は昨年度に比べ、講座の定員をほぼ埋める出席率となった。

本年度講座のリピーター (確かな歴史ファン)

4回以上…9人 3回…2人 2回…5人

4回以上の出席者は9人で館長より令和3年度佐土原学認定証が渡された。このように本年度はリピーターが多くなった。このことは、出席者が講座の「つながり」を感じ、そこに「やりがい」を感じたからだと考える。

第2節 手立ての効果

第4回目の講座の際に受講者に再受講された理由 (手立て) を思いの強い順に3つまで選択してもらった。一番思いの強い理由を3点、二番目を2点、三番目を1点として集計した結果が表2である。

【表2】 再受講した理由

| 順位 | 理由 (手立て) | ポイント |
|----|-----------------|------|
| 1 | 内容に興味があるから | 35 |
| 2 | 史跡をみることができるから | 28 |
| 3 | 内容がわかりやすいから | 10 |
| 4 | 内容に関連があるから | 3 |
| 4 | 資料がもらえるから | 3 |
| 4 | 認定証や缶バッジがもらえるから | 3 |

この結果から最も大きな動機は、「内容の理解」と「史跡見学体験」であることが分かる。「分かりやすさ」の章で述べたように歴史ファンの意欲を継続させるためには知識と史跡見学のセット化は必要条件であることが改めて分かった。

第3節 持続可能な学習となったか

本研究の最終的な目標は、歴史を学び続けることに生きがいをもつ市民を一人でも多く育成することである。そのことが持続可能な社会の形成につながる。第4回の講座の最後にこのような設問のアンケートをとった。

「講座を通して佐土原の歴史や文化について見方や考え方が変わりましたか？」

人は、通常の観念で見ていたものが覆されたとき、驚きと感動を覚える。18名の参加者に5段階で回答を得たところ、5段階で一番強い「とてもそう思う」が13人、「やや思う」が5人という結果だった。全員が何らかの思いで歴史を知ることによって見方や考え方が変わったことになる。特に4回目受講の7名中、6人が「とてもそう思う」と答えられており、回を重ねても驚きや感動を持続しておられ、次年度への継続的な学習の構えが十分にできているようである。

このように本年度の歴史体験学習を「つながり」「分かりやすさ」「やりがい」の3つのキーワードをもとに構成することでリピーターを増やし、確かな歴史ファンの育成につながった。

第4節 今後の課題

本年度の結果をもとに次年度の課題として次のことがあげられる。

- リピーターと初めての受講者が同時に講座を受けられるような内容の工夫
- 佐土原の歴史について学習指導員の力量の向上
- 本館のボランティアガイドおよび地域人材とのネットワークの拡充

第5節 研究のおわりに

今回、3回、4回と回を重ねるにつれて受講者との会話も増え、人間関係もできてきたように思う。また、再受講者の方の中には、本館に来られた際にお声掛けをして講座の紹介をさせて頂いたのがきっかけの方も居られる。この例が示すように講座を行っているのは人なのであり、人と人との関係性をどう築いていくかということも本館のような施設の基本的なスタンスではないかと思った。

終わりに本館のスタッフ、ボランティアガイドの方々には大いにお世話になりました。

参考文献

書籍

- 1) 大町三男 著、「史跡で綴る都於郡伊東興亡史」, 小柳印刷, 1984
- 2) 今村信隆・佐々木亨 編,「学芸員がミュージアムを変える!」, 水曜社, 2021

